

歴史を歩く 51

おおさきの歴史を旅してみませんか ⑰



北城から見下ろす大崎町役場の様子



大崎小学校講堂



北城から見る三文字の街

昭和 40 年代までは、城内集落には『城山』という山があって、2つの堀割によって、『北城』『中城』『南城』の3つに分かれていた。



昭和 41 年 7 月の集中豪雨で農業協同組合裏を流れる末粗河に台地の畑の雨水が流れ込み、三文字一帯が浸水した。



昭和 10 年の串良～大崎～志布志間の古江線開通で最も難工事であったのが、泥湿地である三文字地区であった。江戸時代に救仁郷朝次が地頭仮屋から永吉台地に渡る街道建設を行った際、大量の木を浮かせて造ったという工法を活かして、三文字地区の鉄道建設を実現させた。



昭和 30 年代後半～昭和 40 年代初頭の三文字の様子。手前の道路は国道 220 号線。この写真は、国道建設に合わせて移設された消防詰所（元中央分団消防詰所）にあった櫓（やぐら）から撮影されたものです。